

博多織の新製品開発に伴う裁断加工機設備投資と新市場開拓事業

試作開発＋設備投資

ものづくり技術：材料製造プロセス

株式会社サヌイ織物（福岡市）

本事業への経緯

デザインや縫製加工から販売に至るまで一貫して自社で行う

2000 年以上の歴史を有する日本には、さまざまな文化が花開き、それを支える技術者たちが技を磨いてきた。そのような素晴らしい伝統的工芸品が幾つも存在することが、日本の文化的な豊かさを表わしていると言えるだろう。770 年余の歴史を持つ福岡の博多織もそれぞれの時代の職人たちが切磋琢磨し、競い合いながら時代が求める最高の織物を創り続けてきた。その積み重ねが今日の博多織である。

つまり、伝統を紡ぎ続けるということは、時代に応じた革新の連続だと言っても過言ではない。しかし、一方では、伝統をあまりにも特別なことと捉え、技や作品に変化を加えることに否定的な観方もあると聞く。

サヌイ織物は福岡を代表する伝統的工芸品である博多織を 70 年余にわたって支えてきた老舗である。同社は、「革新なくして、伝統なし」の考えの下、博多織の良さを守りながら、新たな博多織の世界を創り上げようと挑戦を続けている。博多織と言えば、帯や着物のイメージが強いが、将来にわたって博多織の技術を維持継続するためにと、昭和 39 年に帯の生産を中止した。そして、博多織の技術で織柄を生かしたギフト製品等を主体とした商品開発に取り組んだ唯一の企業で、開発した商品等は財布や名刺入れ、ネクタイ、ふくさ、信玄袋、風呂敷など身に付けるものから、福岡国際会議場の緞帳、宮崎宮の神殿御幌（みとばり）など多岐にわたる。

このように、新しいものを作りだす源は、織りだけでなくデザインや縫製加工から販売に至るまで一貫して自社で行うという全国的に見てもほとんど例がない生産体制を整えているからでもある。その根底には、時代のニーズにあった博多織の可能性を模索し、博多織のこれまでの伝統に新しい考え方や技術、知恵を加えて後世に伝えていこうとする老舗企業の使命感が感じられる。

また、博多織の歴史や伝統、技の数々を広く知ってもらおうと、本社工場の敷地内で「博多織工芸館」を

運営し、博多織の広報活動にも貢献している。

事業の内容

レーザー裁断機の導入で、短納期とコストダウンを図る

同社の新分野への挑戦は、確実に広がりを見せている。自社製の生地が自動車メーカーに認められ車の装飾生地を開発中である。また、フィギュアスケート『ISUグランプリファイナル 2013 福岡』のメダルリボンの製作も受けた。

こうした実績を上げながら、新たな商品として市場を開拓していくためには、大量生産と需要に沿う価格への対応が必要だった。しかし、当時の製造法では大量生産ができないため、コストダウンにも限界があった。

そこで今回、レーザー裁断機導入によるコストダウンと短納期を実現し、博多織の技術である織柄を生かした市民参加型スポーツイベントの参加記念メダル用リボンなど身近な小物商品の開発を行うこととした。

博多織の生地から小物などの製品加工には、①打ち抜き刃型を製作・選択し、②製品に合わせた打ち抜き刃型を保管場所から移動、③打抜き機でのカット、④切断後の切り口が解れないための焼き入れ、⑤打抜き刃型の保管といった流れがある。ここには、大量生産の壁となっているものもある。商品によっては、1つの商品に対してパーツが数十種類にも及ぶため、その分の刃型が必要になる。刃型の製作には金型が欠かせないため、種類の分だけ金型を作る。その都度コストと製作までの時間がかかるため、改良を加えたり新製品を開発する際の負担となっている。また、裁断すると解れが生じやすいため、解れ防止の後工程として職人による切り口の焼きが必須である。

事業の成果

他社との絶対的差別化と優位性を実現した

そこで、新たに「レーザー裁断機」を導入した。レーザーの熱溶融・融着を利用して切断すると裁断面の糸

解れがでない。レーザー裁断機による裁断工程の改善によって、打ち抜き・切り口の焼き時間の短縮などから、当社の博多織小物製造において、型代だけでも年間 100 万円以上、人件費においては作業時間にして約 1/4 を削減することができた。

レーザー裁断機用 CAD システムも導入した。従来のように金型が必要なくなり、コスト削減と共に試作品製作までの時間を大幅に短縮した。

また、コスト低減だけでなく、新商品開発に要する時間も、打ち抜き型刃製作期間だけで 2 週間からわずか 1 日に短縮した。ストダウンと時間短縮によって、より安価な製品開発と迅速な商品展開が可能となる。

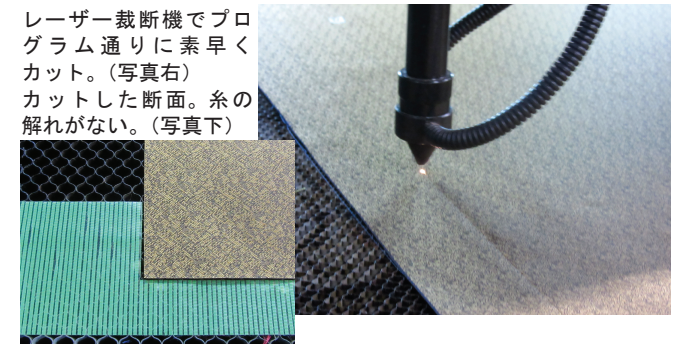
例えば、本に挟む博多織オリジナル葉の生産に関しては現在、一日に 200 枚だった生産量が一日に 3000 枚以上となり、従来よりも 15 倍以上の生産能力を実現した。それによって、今まで単価が安くて入り込めなかった量産型粗品系となる記念品等の販売にもめどを付けることができる。そのことによって、量産型粗品系の記念品だけで年間 2000 万円以上の売上が見込め、他社との絶対的差別化と製品加工における優位性を実現できる。

今後の課題・展望

博多織とは無縁だった新市場への参入も可能に

今回の設備投資をさらに効果的なものとするために、CADに移行できる金型のデータ化に取り組む。

また、レーザー裁断機の導入と生産体制の革新により、新しい市場が見えてきた。例えば、一般的なりボンに、博多織という付加価値と折柄がある「博多織リボン」として、スポーツ関連のメダル用リボンの他、来賓用リボン等も開発し、ギフト関連の小売店、花屋、洋菓子・和菓子店、美容室、オートクチュールの洋服店、用品店、



試作した手裏剣。



博多織工芸館。

伝統とは、革新の連続のうえに成り立つ礎です。ライフスタイルの変化により、着物を着る人は少なくなりましたが、革新への意欲を胸にチャレンジを続け、時代が求める最高の織物を提供し続けられたなら、きっと博多織の可能性はまだまだ広がる。そして、博多織の真の伝統は次代へ受け継がれていく。「革新なくして、伝統なし」この想いが博多織に明るい未来をもたらすのだと、私たちサヌイ織物は確信しています。



讃井 勝彦 社長

個人の洋裁ファンなど、今まで博多織とは無縁だった新規市場への参入も見えてきた。

今後は、様々なデザインカットの製品を開発し、今までになかった博多織雑貨を市場に展開し、5 年後に小物関連で現在の 40%アップ、全体で平成 30 年には 49%増まで引き上げる計画である。

企業概要

会社名	株式会社サヌイ織物	設立	昭和44年2月（創業：昭和24年2月）
住所	福岡市西区小戸3丁目51-22	事業内容	博多織製造販売、博多織工芸館運営
代表者	讃井 勝彦	従業員数	16人
連絡先	TEL092-883-7077、FAX092-883-7107	ホームページ	http://sanui-orimono.co.jp/
資本金	1000万円		